

平井尚志の なめとこ山通信



第74回 冒険学校の思い出

皆さん、こんにちは。あんなに暑い暑いと言っていたのに、やっぱり寒い日がやって来ましたね。と言いますか、もう日本には、気持ちの良い秋の気候なんてなくなってしまうのでしょうかと、そんな心配をしている今日この頃です。皆さんいかがお過ごしですか。

さて今回の「なめとこ山通信」は、冒険学校の思い出、と題してみました。そうそう、これならスラスラといろいろ書けるかもしれません。そして皆さんにも、それぞれの「冒険学校の思い出」があるかと思います。何しろ、二十年、ですから。あ～はいはい、そんなことが、とか、へえ～そうなんだ！ってな具合に、ちょっと記憶を辿りながら、皆さんも一緒に、冒険学校の歴史を思い出してみてください。

地球冒険学校設立準備会の結成総会が開かれたのは、2004年4月24日のことでした。その頃の私は、恥ずかしながらまだ決まった職もなく、学校の非常勤講師をしたりしなかったり、という生活でした。たまたま講師で入った八王子東養護学校の宮下先生から、「今度、こんな会を作ってみるんだけど、どう？」というお話をうかがい、なんか面白そう！と思ったことを覚えています。このままで良いのか？ 今、子どもたち、学校、家庭、日本の社会を見ていてそう感じる。青少年の犯罪、学校の競争主義、学級崩壊、不登校、ひきこもり、児童虐待、、、取り戻したい 人間本来の姿を、人と人とのぬくもりある関係を、暖かく厳しい家庭を、自由な遊びの空間を、澄み切った青空と満天の星空を、奥深い緑の森を。今こそつくりたい のびやかな感性としなやかな知性を育てる学校、枠にとらわれない自由な学校を。

冒険学校の設立趣旨には、そんなことが書いてありました。実は、登山家の植村直己さんのことを尊敬していた当時の私は、自分も植村さんが考えていたように冒険学校みたいなものを作りたいなあと夢のように考えていて、正に「これだあ！」と思ったのでした。

2004年の7月の末に、グアム・キャンプがありましたね。私はその時、訳あって足の踵を骨折していましたが、松葉杖をついて、のこのことそれに参加しました。この後も冒険学校はいくつかの海外旅行を実施しましたが、私が参加したのはこのキャンプだけだったので、今思うと本当に懐かしい良い思い出です。キャンプの夜、宮下家の長男、哲人くんが、「みんなでジョン・レノンのイマジンを歌おうよ。」と言って、イマジンを歌いましたっけ。いやあ～、良い若者だなあって思いま

した。その哲人さんはその後、恐竜博士になって、カナダ国立自然史博物館主任研究員として、カナダから ZOOM での学習交流会を開いてくれましたよね。2023 年 1 月のことでしたから、わりと最近ですね。

私が会報に、「なめとこ山通信」として文章を書いたのは、2004 年の第 3 号が最初でした。その 3 号に、哲人くんも「冒険する科学者」第 1 回を寄稿しています。2005 年 4 月の総会で、会の名称が「地球冒険学校準備会」となりました。「設立」がとれたんですね。近い将来、「準備会」もとれて、晴れて「地球冒険学校」としてスタートできたらいいなあ、と、これは宮下先生の言葉でしょうか会報に載ってますね。そして 2006 年の 4 月に、「地球冒険学校準備会」は、NPO 法人格を申請しました。（認可を受けたのは 9 月でした。）この時、理事の中に私の名前も入れていただいたのですが、「理事って何するの？」と思ったのが正直な感想です。でもたぶん、16 人もいた理事の皆さんが、実はそんなことを思っていたのではないかなあと感じています。「まあ動き出せばなんとかなるよ」と、そう思っていたのではないかと思うのです。そう、皆が少しは若かったのです、あの頃は。

初めの頃の冒険学校は、がんばって海外旅行の企画を続けていましたねえ。そしてだんだん定着していったのが、秋の「車椅子の人と高尾山に登ろう」企画や、冬の「雪と遊ぼう」企画、でしょうか。遅れて、「バリアフリー運動会」も始まりました。いろんな立場の人がふつうに集まって、みんなでワイワイやって楽しむ、という冒険学校スタイルが出来上がってきましたよね。そうそう、わくわくコンサートも、冒険学校の大きな企画の一つになっていきます。冒険学校設立の当初は独身だった私は、ちゃっかり結婚して一人娘も生まれたわけですが、娘の成長と冒険学校は、なんだかわりとリンクしていて、あそこのあの時はあんなことがあって楽しかったなあという思い出がいっぱいです。特に、娘が少し大きくなって、わくわくコンサートの夜の部で何度か一緒にダンスを踊ったことが、今となっては娘とのそんなことが考えられないものですから、本当にしみじみと懐かしく思い出されてくるのでした。たぶん、数回なんですよ、でも、皆さんに披露するためにちょっとは練習したりして（娘はすぐに覚えるのですが、リズム感のない私にとって毎回四苦八苦だったのです。）本当に、あんなことがあったっけなあ、思い出に耽ってしまいます。

冒険学校のおかげで、普通に過ごしていたら出会えなかったかもしれないたくさんの人とも、色々な体験を一緒にすることができました。私はそうなのですが、きっと皆さんも、色々な思い出があるだろうなあ、思うのです。それで、皆さんにとっての冒険学校の話、ぜひぜひお聞きしてみたいと思いました。次回の会報は、「私の冒険学校の思い出！」でいっぱいになりますか？ 出会えた人に感謝、の回って感じで。ぜひお願いします。皆で、投稿しましょう！

今回の文章を書くに当たって、冒険学校の始まりの頃の書類なんかを引っ張り出してみました。

そうして、設立趣旨も敢えて載せてみましたが、20年前と今と、私たちを取り巻く問題は変わっていないのかな～、と言いますか、いっそう悪くなったりしているのかなあ～とも感じたりしたのでした。それでも、忘れないでください。私たちには冒険学校があったことを。「枠にとらわれない自由な学校を」の言葉の元に、皆さんが集まってくれたことを。

私はこれからも、地球冒険学校が大好きです。